



きざき

題字：寺尾 貞男 氏（笹山）

令和4年5月27日

令和4年度 第2号

子どもの自然も元気な木崎小学校

校長 島津弘次

緊張感も解け、子どもたちの学校生活も活発になってきました。天気の良い日には、中庭は1年生で賑わっています。鉄棒にぶら下がったり、追いかっこをしたりして楽しそうです。玄関前のアスファルト広場では、一輪車に乗るこどもたちで盛況です。右へ曲がるのも左へ曲がるのも自由自在に上手に乗ってみせる子、まだ発展途上で練習中の子など様々です。学校を牽引する高学年は休み時間も忙しそうでした。少し前には運動会に向けての準備が進められていたからです。いち早く始動したのが応援団。結団式では、団長を筆頭にどの団員もやる気に満ちた表情でした。とても頼もしく感じられました。また、全校表現係もチームが結成され、木崎小学校を一つにする表現運動が始まっていました。自分たちで考えた振り付けを一生懸命に練習していました。踊り始めるタイミングを少しずらして立体感を演出するなど、随所に工夫がなされており、とてもかっこいい表現運動に仕上がりました。運動会当日の盛り上がりはこんなところから始まっていたのです。

さて、元気が出てきたのは子どもたちだけではありません。植物や生き物にも勢いが出てきたようです。二十四節季で5月5日は「立夏」でした。このころから夏の気が立ち始めるという意味で「立夏」と呼ばれ、生活の節々で夏の訪れを感じるそうです。4月の上旬には満開の桜が1年生の入学をお祝いしてくれました。5月に入るとハナミズキが純白の花や白とピンクの混じった美しい花を咲かせていました。花と書きましたが、花に見えているのは、実は「ほう」という部分で、「ほう」は分類すると葉の仲間に入るそうです。花は、中心にあるめしべのように見えるもので、小さな花が集合している部分だそうです。6月には、1年生が種をまいたアサガオや2年生が大事に育てている野菜も芽を出したり花を咲かせたりしてきそうです。葉も数が増え、その1枚1枚が大きくなって色も濃くなっていくでしょう。このほかにも木崎小学校の敷地内にはたくさんの植物や樹木が植えられていて、学習に用いられたり、環境構成に役立てられたりしています。御来校の際、少し気に留めてどんな花が咲いているかな、秋にはどんな実がなるかなと眺めていただくと意外な発見があるかもしれません。

元気が出ると学校全体が活力に満ちてよい雰囲気になります。その一方で注意したいのがケガ等の事故です。4月の保健室来室者数は、のべ184人でした。4月1か月だけで200人に迫る勢いです。骨折事案や救急車の要請等大きなケガはありませんでしたが、廊下を走る姿や階段を飛び降りる姿も散見されます。ちょっと勢いがつきすぎて、禁止されているステージの上へ上がって遊んでしまう場面も見られました。活発に活動する場面と落ち着いて取り組む場面のメリハリのある指導をしてまいります。ご家庭でも声掛けやご指導よろしくお願いします。

令和4年度 木崎小学校の重点目標と取組

「夢を描く力」を育む木崎小学校の教育を推進していくために、「資質・能力&授業力部」「自立&支持的風土部」「健やかな体づくりの推進部」「特別支援教育部」では、次のような活動に取り組んでいきます。



①資質・能力&授業力部

【現状と課題】

- ① 前年度までに生活科・総合的な学習の時間で、「木崎ならではの」学習活動をつくることができました。その取り組みを継続・発展しつつ、「対話」を柱にして「深い学び」をつくる学習づくりに積極的に取り組みます。
- ② 帰りの会の10分間を活用した「ステップアップタイム」の取組を通して、家庭学習の習慣が定着してきました。全校テストや日々の学習を重ねてさらなる学力の向上を目指します。

【重点目標】

- ① 対話で学びを深める子ども
- ② 自分で計画を立てて家庭学習に取り組み、自分の力を伸ばす子ども

【目標達成のための手立て】

- ①-1 子どもたちが「できた」「分かった」となる姿を求めて、対話を学習に積極的に取り入れます。ペアやグループなど形態を工夫した対話により、「できた」「分かった」という子どもたちの姿につながるようにします。
- ①-2 友達と協力しながら主体的に学習を進めるための話し方・聞き方・書き方を「学びのスキル」として各学級に掲示し、学年の発達段階に応じて継続的に指導します。
- ②-1 「ステップアップタイム」で家庭学習の計画を立て、取り組みます。毎日の学習の復習や全校テストに向けての学習など、どんな家庭学習に取り組むとよいか、担任が継続的にアドバイスします。

②自立・支持的風土部

【現状と課題】

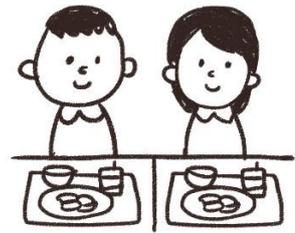
- 自己評価で、「自分にはよいところがあると思いますか」という問いに、肯定的な評価をしている子どもが増えてきています。今年度も、さらに自分に自信をもち、友達にも思いやりの心で接することができる子どもを目指します。

【重点目標】

- 子ども一人一人を多面的に理解し、子どもに良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、子どもとの信頼関係を築く。

【目標達成のための手立て】

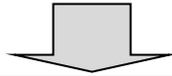
- 全職員で子どもの頑張っているところや良いところを褒め、認め、声掛けを繰り返すことで、子どもに自信をもたせ、自己肯定感を育みます。
- 縦割り班清掃の反省会で、子ども同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合います。その良さを、目に見える形でも伝えます。また、学級での係活動、委員会活動や清掃、クラブ、縦割り活動等をやり切ることで、達成感・自己有用感をもたせます。



③ 健やかな体づくりの推進部

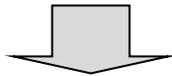
【現状と課題】

- 約10年に渡り続けてきた「弁当の日」は、平成29年度から全校で実施して、力を入れて取り組んでいます。実施後の児童アンケートでは、86.8%が「食に関する関心、理解が深まった。」と答えています。子どもたちは、弁当作りを通して家族とのコミュニケーションを深め、自分の食事に関心を持つようになってきています。



【重点目標】

- 食で、健康・栄養面での理解を深め、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育む。



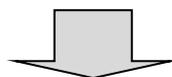
【目標達成のための手立て】

- 「弁当の日」に全校児童で取り組みます。各学年教科を横断して、食に関する学びを深めていきます。
- 自己の成長を実感するために、食と身体、食と地域、食と家庭生活などの食を通じた学びをタブレット等で蓄積していきます。
- 栄養教諭によるランチタイム指導で、望ましい食習慣についての指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させます。

④ 特別支援教育部

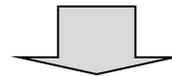
【現状と課題】

- 個々の児童の課題が多様化しています。多様な児童に対応するため、個別の指導計画や教育支援計画を作成し、それを活用していきます。
- 互いの理解を深め、多様な個性を尊重できるように、児童同士が認め合う場の設定が必要です。



【重点目標】

- 自立と社会参加を目指した適切な支援を行うとともに、児童同士が互いに理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行う。



【目標達成のための手立て】

- 自立を促す支援ができるように、個別の指導計画等を作成し、情報の共有と評価、見直しを行います。
- 道徳などの時間に、学級担任と連携して、特別支援教育部による「思いやり」や「個性尊重」についての出前授業を行います。
- 校時表や学習のルールなどのユニバーサル・デザイン掲示物を蓄積し、通常学級でも活用できるようにしていきます。

令和4年度 「夢を描く力」を育む 木崎小学校教育ビジョン

<教育目標>

<すじみちを立てて考える子ども><明るく思いやりのある子ども><からだをじょうぶにする子ども>

(重点課題)

意欲的に考える子ども

きまりを守り自他を尊重する子ども

健康的な生活習慣を身に付ける子ども

学力の向上

- ・「対話で学び深める授業づくり～深い学びにつながる対話的な学びの在り方をさぐる～」を目指した授業づくり。

豊かな心

- ・児童一人一人を多面的に理解し、児童の良さを伝えることで自己肯定感を高めるとともに、児童との信頼関係を築く。

健やかな体

- ・食で、健康・栄養面での理解を深め、主体的に家庭生活に関わろうとする態度を育む。

- ・目的を明らかにした「対話」を位置づけた授業を行い、「学びの深まり」のための「対話」はどうかを検証する授業公開をする。(全職員・年1回)
- ・学力実態を共有し、「どこで」「どのような」対話的な学習を編成するとよいかについて研修を行う。(年1回)

- ・全職員で児童の良いところを積極的に見付けて、声掛けを繰り返す。(随時)
- ・学級のグループや縦割り班での清掃の反省会で、児童同士で互いに頑張っているところ、良かったところを発表し合う。(清掃時)

- ・弁当の日に向けて、各学年教科を横断して、食に関する学びを深めていく。(年間を通して)
- ・自己の成長を実感させるために、食と身体、食と地域、食と家庭生活などの食を通じた学びをタブレット等で蓄積していく。
- ・栄養教諭による食にかかわる指導で、望ましい食習慣について指導を行い、給食の時間を活用して、児童の食育についての意識を向上させる。(年間1回)

特別支援教育

自立と社会参加を目指した適切な支援を行うとともに、児童同士が互いの理解を深め、多様な個性を尊重できる環境作りを行う。

- ・自立と社会参加を目指した個別の教育支援計画並びに個別の指導計画を作成し、学年部で研修の機会をもち、全職員で情報の共有と評価、見直しを行う。(学年部全職員合わせて年2回)
- ・道徳などの時間に、特別支援教育部による「思いやり」や「個性尊重」についての出張授業を行う。(年1回以上)
- ・校時表や学習のルールなどのUD掲示物を蓄積し、通常学級でも活用できるようにしていく。(通年)

<支持的風土の醸成>

友達の個性や良いところを理解し、さらに良い人間関係を築き、自他を大切に、温かい木崎小学校の具現を目指す。

- ・「自立を促す生徒指導の推進」を中核エンジンとして、学級・学年・縦割りの様々な活動を通して、校内に支持的風土を醸成する。

<保護者や地域と共に歩む開かれた学校>

- ◎木崎小中学区のコミュニティ・スクールを生かし、地域と一体となって実践していく。
- ・地域教育コーディネーターを中心に、積極的に地域の人材活用に努め、保護者や地域との協働を進める。
- ・学習支援ボランティアや地域の人材を生かした食育を充実させる。
- ・生活習慣改善に向けた生活リズム、食事、ノーメディア等の強調週間等で家庭との連携を図る。